

深い学びの実現を目指した小学校家庭科における授業開発

～住生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育むための清掃学習～

◎萬羽 郁子（東京学芸大学生生活科学講座生活科学分野）

○西岡 里奈（東京学芸大学附属小金井小学校）

齊藤 和貴（東京学芸大学附属小金井小学校）

藤田 智子（東京学芸大学生生活科学講座家庭科教育分野）

渡瀬 典子（東京学芸大学生生活科学講座家庭科教育分野）

加藤 直樹（東京学芸大学教育実践研究支援センター）

藤原 裕（東京学芸大学教育実践研究支援センター）

代表者連絡先：ibamba@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 小学校、家庭科、学校清掃、清掃教育、カリキュラム・マネジメント

1 はじめに

清掃は児童にとって身近な環境整備の一つであり、日本では学校清掃を児童・生徒が行うことが多い。学校清掃は児童・生徒の人間形成上有意義と考えられ、勤労体験学習としての教育的意義が期待されてきたが（沖原他，1980）、一方で、小・中学校の教員を対象とした調査では学校清掃指導について学ぶ機会が少ないことなど（株式会社ダスキン，2018）、清掃教育に関する課題も挙げられている。

小学校家庭科の住生活領域でも、清掃は快適に生活するために必要な知識および技能の一つとして取り上げられている。小学校学習指導要領（平成 29 年告示）家庭編では、社会の急激な変化に対応し、主体的に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目標としている。小学校家庭科では、特に、少子高齢社会における「低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり」、グローバル化への対応としての「生活文化の大切さ」、「持続可能な社会の構築」の視点が重視され、内容の見直しも行われた。家庭科では、家族・家庭、衣食住、消費・環境を取り扱うが、住生活領域は実施時間が他領域に比べて少ないことや、教員自身の興味が低く指導の際に困難さを感じていることなど（正岡他，2012）、課題が多い。しかし、住まいは生活の器と表現されるように家庭生活の基盤であり、家庭科において住生活領域は他領域との繋がりや、少子高齢社会への対応、生活文化、持続可能な社会との関連性も強い。

また、平成 29・30・31 年学習指導要領改訂のポイントの一つとして、「学校教育に関わる様々な取り組みを、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていく」カリキュラム・マネジメントの推進が挙げられ、児童や学校、地域の実態を適切に把握すること、目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てることなどが提案されている。小学校における清掃学習は家庭科、学校清掃、生活科など様々な教科等で扱われることから、学校清掃のカリキュラムについてカリキュラム・マネジメントの視点からも再検討する必要がある。

2 本プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、家庭科住生活分野での清掃学習を中心に、カリキュラム・マネジメントの視点から小学校における清掃学習の意義や学習内容を整理する。そのために、小学校教員を対象としたアンケート調査を実施し、清掃学習の意義や実践例を収集する。また、家庭からみた学校における清掃学習の意義

を明らかにするため、保護者を対象としたアンケート調査を実施する。その上で、小学校家庭科住生活領域における新学習指導要領に対応した授業提案を行うとともに、その効果検証をする。

3 本プロジェクトの実施

(1) 小学校学習指導要領解説における清掃学習

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説における清掃・掃除に関する内容を整理した。表 1 にその結果を示す。ここから小学校での清掃学習や清掃活動の主な意義としては、生活技術的な側面と、社会参画力に関する側面が重なり合っていることが分かった。

表 1 小学校学習指導要領解説における清掃・清掃学習に関する主な記述

家庭編	● 気持ちよく生活するための知識や技能
特別活動編	● 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解のための当番・係活動の例 ● 基本的な生活の仕方を身に付けるとともに、集団活動を通して他者との関係を深めるための活動 ● 学校行事の中の勤労生産・奉仕的行事の例
生活編	● 生活上必要な習慣や技能の例 ● 公共物や公共施設などみんなで使うものやそれらを支えている人々の仕事の例
特別の教科道徳編	● 勤労、公共の精神を身に付けるための活動
社会編	● 人々の健康や生活環境を支える事業（廃棄物処理） ● 社会に見られる課題（ごみの減量）
総合的な学習の時間編	● ごみの種類と量の調査
図画工作編	● 作業後のごみの分別や環境に対する配慮
数学編	● 日常生活にある量の大きさを比べる活動の例（大掃除で教室から廊下に出す場面）
体育編	● 表現における生活からの題材の例
総則編	● 児童の道徳性を養う上で、人的な環境とともに物的な環境も大切である（整理整頓や掃除などの環境整備の必要性） ● 環境の充実・整備は教職員だけが中心となって進めるだけでなく児童自ら積極的に行うことができるように特別活動等とも関連を図りながら指導すること

(2) 小学校教員を対象とした清掃学習の意義と課題についてのアンケート調査

2020 年 2 月に小学校教員を対象としたアンケート調査を実施した。調査は、社会調査会社（マイボイスコム株式会社）の登録会員のうち、全国の小学校教員を対象とし 300 名程度を公募型で実施した。回答者は 301 名で、50 代が 3 割と最も多かったが 20～60 代まで幅広い回答があった。8 割が小学校全科教員で、2 割が専科の教員、そのうち家庭科専科は 1% であった。

家庭科住生活領域清掃学習と学校清掃の指導において困っていることとしては、いずれも指導時間、用具の不足が挙げられ、家庭科ではそれに加えて教具・教材の不足も課題であった（図 1）。指導観を尋ねたところ、「(1) 小学校学習指導要領解説における清掃学習」で示したような家庭科と学校清掃のそれぞれの教科等の特性が概ね捉えられていたが、学校清掃に比べて家庭科住生活領域清掃学習の教育的意義はやや低かった。清掃学習の教育的意義には清掃の授業担当経験が影響していたことから、教科等の連携を充実していくためにも担当したことがない教員に対しても家庭科住生活領域で扱う清掃学習の意義や特徴を発信していく必要があると言える。

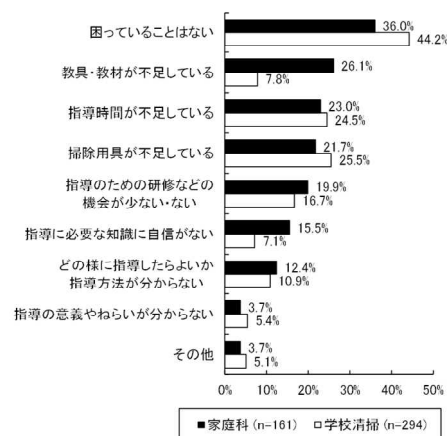


図 1 家庭科清掃学習および学校清掃において困っていること（複数回答）

（３） 保護者を対象とした清掃・清掃教育のアンケート調査

2021年3月にインターネットを利用したアンケート調査を実施した。調査は、社会調査会社（マイボスコム株式会社）の登録会員のうち、全国の小学校5年生または6年生の子どもを持つ保護者を対象とし300名程度を公募型で実施した。回答者は300名で、40代が約8割と多かった。

家庭での清掃実態について、清掃時間は週に70分未満の家庭が半数以上に及び、居室、台所、風呂場、トイレなど使用頻度の高い場所を短くこまめに掃除している一方で、子どもが家庭で掃除に関わっている時間は非常に少なかった。清掃用具について、「（２）小学校教員を対象とした清掃学習の意義と課題についてのアンケート調査」より学校清掃ではほうき、ちりとり、ぞうきんが広く使用されていたが、家庭では掃除機、ぞうきん、フローリングドライモップ・ワイパーなどが使用されており、家庭と学校清掃で違いが見られた。

清掃教育について、保護者は家庭で整理・整頓については教えているものの、清掃について教えている家庭は少ないことがわかった。また、保護者は家庭での清掃教育よりも学校清掃や家庭科など学校での清掃教育の意義を高く感じていたこと、学校清掃および小学校家庭科では家庭で実践できるようになるための指導を期待していることがわかった。

（４） 新学習指導要領に対応した授業提案

「（１）小学校学習指導要領解説における清掃学習」および「（２）小学校教員を対象とした清掃学習の意義と課題についてのアンケート調査」より、家庭科での清掃学習では場所や汚れに合った清掃計画を立てること、健康・安全の視点や環境への配慮、家庭での実践に繋げることが学校清掃に比べて重視されていること、学校清掃とともに清掃の目的の理解が重視されていることがわかった。そこで、これらの小学校家庭科住生活領域の清掃学習の特性を生かした授業提案を行った。

授業実践は東京学芸大学附属小金井小学校5・6年生の全6クラス（1学年3クラスずつ）を対象に行った。題材名は「そうじ名人になろう」である（表2）。題材の目標は、「住まいの清掃の仕方を理解し、汚れに合わせた清掃を行うことができる」であり、本時（全8時間中の1時間目）のねらいは「日々の清掃を振り返り、清掃の意義と必要性に気づくことができる」とした。本時は、知識構成型ジグソー法（CoREF）を取り入れ、「そうじはいつする？」を問いにして、エキスパート活動ではAダニ・カビ（健康・安全）、B大掃除・行事（生活文化）、C住まいの中の汚れ（汚れの種類）、D床材による清掃の仕方の違い（汚れの種類に合った清掃計画）の4グループに分かれた。エキスパート活動に用いた資料は各担当で両面印刷1枚とし、児童が興味を持って清掃についての知識を身に付けることができるように、写真やグラフ、イラストなどを用いて工夫して作成した（図2）。ジグソー活動を経て、問いをもとにいつ清掃したらよいかについて考えながら清掃の目的や清掃計画についての理解も深めることを目指した。

表2 提案授業の学習指導計画（全8時間）

第1次：そうじはいつする？ 1時間(本時1／8時間)	○掃除の意義を考える。
第2次：いろいろなそうじの仕方を考えよう 5時間	○いろいろな掃除の仕方を考える。 ・ 普段の掃除の仕方を振り返る。 ・ 一年生に掃除の仕方を教えるとき、大切なことを話し合う。 ・ 班ごとに課題を決め、調べる。 ・ ロイロノートにまとめる。
第3次：一年生にそうじの仕方を教えよう 2時間	○一年生に調べた内容を発表する。 ・ 班ごとに一年生に掃除の仕方を発表する。

児童は、授業開始時およびエキスパート活動の時点では自分の持つ清掃に関する狭い知識やイメージで捉えていたが、ジグソー活動を通してそれぞれの意見を共有し、自分の知識と結びつけながら掃除をいつすべきであるのか、多面的に考えている様子がみられた。他のエキスパートの分からない部分に関しては疑問を問いかけたり、また理解しようとする姿勢を見せたりと、能動的に活動する様子もみられた。

第一次を通して清掃について多面に捉え、清掃の意義を理解した児童らは、第二次では、清掃の具体的な方法について調べたり、調べた内容を参考に清掃の仕方についての説明動画を作成した。情報収集・活用能力を用いるとともに、タブレットを用いて写真や動画を撮影するなど ICT 機器も活用した。第三次では、生活科および学校清掃との連携を意識し、第二次で製作した説明動画を用いて一年生に清掃の方法を伝えることとした。

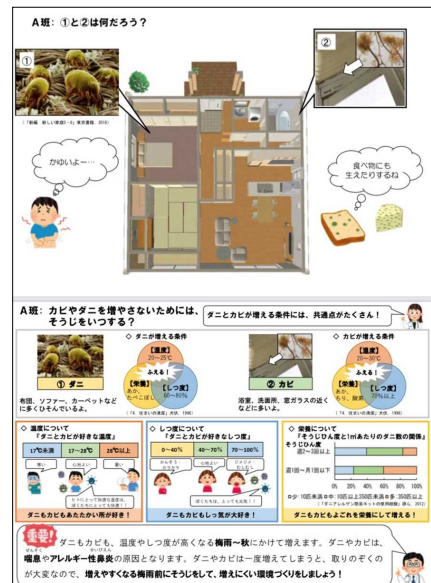


図2 エキスパート活動に用いた資料の例 (A ダニ・カビ (健康・安全))

4 成果と課題

本プロジェクトでは、まず、小学校学習指導要領解説より清掃・清掃学習に関する記述を抽出し、家庭科住生活領域を中心に小学校における清掃学習の取扱いをカリキュラム・マネジメントの視点から整理した。また、小学校教員を対象としたアンケート調査を実施し、教員が考える家庭科住生活領域における清掃学習と学校清掃の意義、清掃教育の実態、他教科等との横断的な実践例を収集した。さらに、保護者を対象としたアンケート調査から、家庭における清掃教育の実態や家庭からみた学校における清掃教育の意義について調査した。これらの結果より小学校家庭科住生活領域における清掃学習の意義として、健康・安全の視点や環境への配慮、家庭での実践に繋げること、清掃の目的の理解が挙げられた。これらの理解を深めるための新学習指導要領に対応した授業提案として、知識構成型ジグソー法を取り入れた話し合い活動や、生活科や学校清掃との連携を意識し ICT 機器を用いて低学年児童に清掃方法を伝える活動について授業実践を行った。今後は、清掃学習においてさらに他の教科等との連携を意識した授業提案を行うとともに、他の学習内容についてもカリキュラム・マネジメントを意識した指導計画等を行っていきたい。

参考文献

- 正岡さち, 小谷智恵, 亀崎美苗, 田中宏子. (2012). 島根県の小学校家庭科における住教育の実態と課題. 島根大学教育学部紀要 (教育科学), 46, 53-60.
- 株式会社ダスキン. (2018). 学校に「お掃除先生」やってきた! 子どもも社員も成長する「キレイのタネまき教室」. 株式会社カナリアコミュニケーションズ: 東京.
- 沖原豊, 石崎正雄, 小倉玄照, 岡本和子, 石井均, 米村佳樹, 岩崎恭枝, 大塚豊, 西村重夫, 川地洋一, 養祖京子, 二宮皓. (1980). 学校掃除—その人間形成的役割—. 東京: 学出版株式会社.
- 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構. (2015). 協調学習 授業デザインハンドブック—知識構成型ジグソー法を用いた授業づくり—. https://ni-coref.or.jp/legacy/wp-content/uploads/2015/04/handbook_all.pdf. (2022年6月10日閲覧)